

6

八幡西区

都市型居住で歴史と学びのある元気なまち

1 現状と課題

八幡西区は、本市で最も人口が多い区で、広域交通の要衝として、また遠賀・中間地域を含む圏域の産業・生活・文化を支える拠点として重要な役割を担っています。今後、周辺地域からの交通人口^{※1}の増加、商店街の活性化、魅力ある学園都市づくり、歴史や自然と調和した住環境の整備などを進めることが求められています。これらに加えて、住民がまちに自信と誇りを持ち、安全・安心に生活できるまちづくりを行っていく必要があります。

2 地域資源

①八幡西区は小倉北区に次ぐ商業集積があります。黒崎地区は、商業機能の低下が見られるものの、黒崎駅は鉄道・バスの総合ターミナル機能を備え、さらに国道3号黒崎バイパスの整備も進むなど、優れた交通結節機能を有しています。

②折尾地区には、大学、短期大学、高等学校などが集積しており、区北西部から若松区にかけては、先端科学技術に関する大学・研究機関が集積する北九州学術研究都市が広がるなど、充実した知的基盤が整っています。

③八幡西区には、かつて長崎街道の黒崎宿と木屋瀬宿という二つの宿場がありました。曲里の松並木や立場茶屋銀杏屋、旧高崎家住宅（伊馬春部生家）などの貴重な文化財や史跡が今も多く残っています。また、堀川運河など近代化産業遺産^{※2}があります。さらに、黒崎祇園山笠をはじめとするとする多彩な祭りもあり、これらを観光資源として活用し、歴史と文化を活かしたまちづくりを進めています。



黒崎祇園山笠



木更津のまちなみ

④金山川水辺の里や薬板の森公園、吉祥寺公園など、水と緑の豊かな自然が残っており、子どもから大人まで、四季折々の自然に気軽に親むことができる環境があります。

3 まちづくりの方向性

①黒崎副都心地区については、商業地としての魅力の向上、文化・交流拠点地区、コムシティの活用、公共交通の利用促進などにより集客と回遊性の向上を図るとともに、居住環境の魅力と生活利便性を活かした「街なか^{※3}」居住の促進、商店街や個店の魅力アップなどの支援による商業の活性化を図ります。

さらに、ロボット村^{※4}の整備、黒崎駅舎の改築、南北自由通路の建設など、黒崎副都心の活性化に向けた官民連携の取組が始まっており、さらなるまちにぎわいづくりに取り組めます。

②折尾地区では、学園都市としての魅力あるまちづくりのため、また、北九州学術研究都市の玄关口にふさわしい交通拠点の形成のため、折尾地区総合整備事業により、交通環境の改善や交通結節機能のさらなる向上、駅南側の住環境の改善、まちの一体化などに取り組み、広域拠点として再構築を図ります。



新折尾駅舎デザイン案

⑤区内には、産業用ロボットや化学技術を使った新素材、精密金型などの分野で世界をリードする企業が活躍しています。

③区の西部・中部・南部地区においては、周辺地区との道路ネットワークの充実や、良好な居住環境を活かした住みやすいまちづくりに取り組めます。また、地域の特色を活かした住民主体のまちづくりを支援します。

④長崎街道の歴史と文化を活用したまちづくりに取り組むことで、新たなまちの魅力とにぎわいを創出します。

⑤地域に根ざした防災・防犯に取り組むことで、子どもから高齢者まで誰もが安全・安心に快適に暮らせるまちづくりを進めます。



※1 交通人口/P26参照

※2 近代化産業遺産/日本の産業の近代化に貢献した建造物や機械などを経済産業大臣が認定したもの。

※3 街なか/P13参照

※4 ロボット村/(株)安川電機が広く地域住民や学校・研究機関に開放する予定にしている施設のこと。ロボット技術に関する情報を提供し、技術・技能の伝承を図るほか、ロボットにより創しるを持てる場を提供する。